令和7年度

松島町

アプローチ・カリキュラム
＆
スタート・カリキュラム

平成30年度（作成）
令和3年度（改訂）
令和7年度（改訂）

松島町教育委員会

目　　次

Ⅰ　アプローチ・カリキュラム

1　就学までに育ってほしい姿（目指す幼児像）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　各年齢における発達特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　　・５歳児（前半）発達特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　　・５歳児（後半）発達特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
　　・小学校１年生　発達特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
3　就学に求められる力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　3－1　生活する力
　　①　教室環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　　②　１日の生活の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　　③　身の回りの始末（靴、衣類の脱着、持ち物の整理）・・・・・・・・・・・・・・・・　8
　　④　食事・排泄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
　3－2　かかわる力
　　⑤　規範意識（あいさつ、善悪の判断、生命尊重、安全生活）・・・・・・・・・・・　１０
　　⑥　聞く、話す、伝え合う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
　　⑦　友だちとの関係づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
　　⑧　担任との関係づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
　3－3　学ぶ力
　　⑨　学びの芽生え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４
　　⑩　運動・表現・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

Ⅱ　スタート・カリキュラム

１　スタート・カリキュラムとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
２　スタート・カリキュラムのねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
３　小学校年間指導計画一覧（４月分）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
４　生活科「すたあと　ぶっく」における年間指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
５　がっこう　だいすき　～スタート・カリキュラムへ～
・元気にあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
・クラスに入ったら（一日入学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
・ランドセル・体操着はどこに置くのかな？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
・今日は雨。傘やレンインコートはどこに？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
・あいさつの仕方はどうすればいいのか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
・元気な返事をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
・トイレに行きたい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
・靴箱にきちんと靴をそろえる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
・上手な着替え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
・遊具の安全な使い方を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
・歌で仲良しになろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
・本がたくさんありますよ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
・整列の仕方を練習しましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
・水道の使い方を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
・姿勢と鉛筆の持ち方を学ぼう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
・友だちたくさん「よろしくね」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
・休み時間の過ごし方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
・保健室ってどんなところ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
・おなかがすいた（給食の準備）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
・掃除の仕方を覚えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
・避難の仕方を覚えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
・プリント類のしまい方を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
・朝の会と帰りの会の持ち方を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
・安全な歩き方を身に付けよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
・不審者に気をつけよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

Ⅰ アプローチ・カリキュラム

１　就学までに育ってほしい姿（めざす幼児像）

今回、幼稚園の「幼稚園教育要領」、保育園の「保育所保育指針」、認定こども園の「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、さらに小・中学校学習指導要領が改訂になりました。

幼稚園と保育園、認定こども園は2018年4月から全面実施されますが、小中学校は移行期間（教科書検定など）があり、小学校は2020年4月から、中学校は2021年4月から全面実施されます。

現行の幼稚園教育要領・保育所保育指針にある「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域を引き続き維持しつつも、主に3～6歳児に共通する、幼稚園と保育園で同時になされた大きな変更点は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化されたことです。

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活との関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量・図形、文字等への関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

これらの「力」を就学前に十分育んだうえで、小学校の入学直後には、生活科を核とした「スタート・カリキュラム」と呼ばれる合科的な指導を行い、各教科の本格的な学びへと円滑につなげていきます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

１　健康な心と体

○幼稚園・保育所・認定こども園の生活の中で充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活つくり出すようになる。

２　自立心

○身近な環境に主体的に関わり様々な活動や遊びを生み出す中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

３　協同性

〇友達との関わりを通して、互いの思いや考えなどを共有し、共有の目的や実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

４　道徳性・規範意識の芽生え

〇友だちと様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友だちの気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになる。また、決まりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、決まりをつくったり、守ったりするようになる。

５　社会生活との関わり

〇家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れあう中で、人との様々なかかわりに気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役立つ喜びを感じ地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園・保育所・認定こども園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりの意識するようになる。

６　思考力の芽生え

〇身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達などの様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

７　自然との関わり・生命尊重

〇自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かせる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、を命あるものをいたわり大切にする気持ちをもって関わるようになる。

８　数量・図形、文字などへの関心・感覚

〇遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味・関心、感覚をもつようになる。

９　言葉による伝え合い

〇先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようにする。

１０　豊かな感性と表現

〇心動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方な　どに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過　程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる

２　各年齢における発達特性

５歳児（前半）　発達特性

体の育ち	・運動機能がますます伸び、喜んで運動遊びをする。 ・仲間とともに活発に遊ぶ。 ・危険な物や場所を知り、安全に気をつけて、遊具や用具を正しく使う。
基本的な生活習慣	・見通しをもった生活ができるようになる（園生活のきまり・当番活動・遊びの準備・片づけなど）。 ・自分の体・衣服・遊ぶ場所などを清潔にしたり持ち物を整理したりする。 ・聞く姿勢、待つ態度が育つ。 ・自分から進んであいさつをする。
心の育ち	・思いやりの心が育ち、お互いを認める。 ・仲間の一人として自覚や自信がもてるようになる。 ・自立心が育ち、達成感や自己有能感をもてるようになる。
コミュニケーション能力・表現	・状況に応じて、適切な言葉を使う。 ・人の話をよく聞き、内容を理解する。 ・自己主張のぶつかり合いの中から自分たちで解決しようとする。 ・感じたことをかいたり、つくったり言葉にしたりして表現する。 ・相手の気持ちや状況を感じる。 ・異年齢の幼児とのかかわりをもつ中で、小さい子への思いやりやいたわりの気持ちをもつ。
学びの芽生え	・探究心をもち、自分なりに試したり工夫したりする。 ・目的に向かって友達と考えを出しながら遊びを進める。 ・一人一人がグループの中で役割を担う。 ・予測する力・工夫を凝らす力を発揮する。

	・身近な自然に触れ、美しさや季節の変化に興味をもつ。 ・ルールのある遊びに参加する。

５歳児（後半） 発達特性

体の育ち	・運動することを喜ぶ。 ・仲間と力いっぱい遊ぶ。 ・様々な遊び（動き）ができるようになる。
基本的な生活習慣	・学校での生活や活動の見通しがつくようになり、自主的に行動する。 ・身支度、配膳を自分でし、基本的なマナー（時間）を守って、食事をする。 ・身の回りを清潔に保つ習慣をつける。 ・様々な学習規律を知る。 ・身の回りの整理整頓をする。 ・掃除や給食当番など自分たちでできる活動に取り組む。
心の育ち	・友達とかかわることの楽しさを覚える。 ・友達の考えを自分の生活に取り入れる活動を振り返り、楽しかったことや頑張ったことに気づき、満足感を得る。 ・友達と協力しながら、活動する。
コミュニケーション能力・表現	・大きな声で、はっきり話す。 ・考えたことや感じたことを先生や友達に話す。 ・尋ねられたことに答える。 ・「ありがとう」「ごめんなさい」が言える。 ・相手の話をしっかり最後まで聞く。 ・楽しく歌ったり、踊ったりする。 ・描く、塗る、切るなどの基本的な造形感覚を身につける。
学びの芽生え	・いろいろなことに興味をもち、やってみる。 ・友達と一緒に学ぶ楽しさを知る。 ・本を読んでもらうことから、自分で読むことも好きになってくる。 ・一つのことに一定時間（10分～15分）集中して取り組む

小学校１年生 発達特性

体の育ち	・自分の力を出し、競い合ったり応援し合ったりして、全身を動かして遊ぶ。 ・様々な運動遊びを通して、進んで物事に取り組む。 ・意欲や達成感を得られるようになる。 ・目的に応じて遊具や用具を選び、安全に使う。
基本的な生活習慣	・生活や活動の見通しがつくようになり、時間を意識し自主的に生活を進めようとする。 ・身の回りの整理整頓を進んで行う。 ・清潔を心がけたり、マナーを守って食事をしたりして心地よく過ごせるようになる。
心の育ち	・意見を調整し、折り合いを付けて解決しようとする。 ・活動を振り返り、楽しかったことや頑張ったこと、工夫したことなどに気づき、満足感を感じる。 ・自分に自信をもち、よいことや得意なことを生活に生かす。 ・その場にふさわしい言動がとれる。 ・自分の成長を感じ、就学への喜びや期待を膨らませる。
コミュニケーション能力・表現	・考えたことや感じたことを相手にわかるように話す。 ・注意深く聞いて、内容を理解し行動する。 ・友達と役割を分担し、互いに考えを出し合い、協力して遊びや生活を進める。 ・感じたことや考えたことを様々な表現方法で工夫して表す。 ・地域の人々と交流をもつ。
学びの芽生え	・遊びや生活の中に、文字や記号を取り入れる。 ・周囲の環境に興味や関心をもち、触れる・観る・試すなど試行錯誤する。 ・素材の感触や物の性質などに気づいたり調べたりして、その物の特徴をおもしろさとして感じる。 ・予測したり工夫したりしたことが実現することで満足感を味わう。

３　就学に求められる力

3-1 生活する力

① 教室環境

一人一人の幼児が安定した生活を送り、興味や関心をもったり、自己発揮したりできるような環境を構成することが大切である。

【幼児の姿】

・目で見て楽しめるような装飾や自分たちの作品などを取り入れた壁面構成などで、季節や行事を感じながら、明るい雰囲気の中で生活している。
・遊びに必要な遊具や用具を必要に応じて自分たちで出したり、片づけたりする。
・机や椅子は、常時並べてあるとは限らず、活動に応じて使用する。机は一人用机ではなく、多人数用机を使用していることが多い。
・個人の持ち物は、決められた場所に、自分で片づけることができる。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

・様々な活動の中で、話の内容に興味や関心をもてるように工夫し、話し手の方を向いて落ち着いて聞く経験を取り入れ、活動のねらいに応じて机や椅子の並べ方や活用の仕方を考える。
・始業式など、いろいろな行事を通して、場に応じた態度で臨めるような機会を作り、経験を重ねる。
・小学校との交流活動の中で、様々な環境に興味や関心をもつことができるようにする。
・ホワイトボードなどを使用し、幼児が自分で理解できるような一日の流れを掲示し、見通しをもって行動できるようにする。
・季節感のある作品やカレンダー・ポスターなどの掲示・展示する場を設定し、知的好奇心を高めるとともに、共通の話題となる機会をつくり、掲示物への興味を高める。

<table>
<tr><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">▲行事までの予定や週の予定、一日の流れなどを掲示する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲椅子に座って活動する体験や立ち姿勢で並んで話を聞く機会を取り入れる。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="4">▲身の回りのものにひらがなや数字をつける。
▲実物と物の呼び名が一致する。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">▲保育者の話を聞きながら掲示された文字を目で追う。</td></tr>
</table>

② 1日の生活の流れ

一人一人の幼児の心が安定し自己発揮できるためには、生活リズムを確立し、見通しをもって生活できるような工夫が大切である。

【幼児の姿】

・登降園（所）時間は、保護者の勤務時間や園バスの時間によって様々である。
・園（所）内では、特別にチャイム等の合図はなく、活動の区切りは、各園（所）のデイリープログラムにそって、幼児の興味や関心を十分踏まえた保育者の声かけによって行動している。
・手洗いやトイレは、保育者の声かけや自主性により、活動と活動の区切りに行っている。
・身体の異常は、保育者が視診触診等で確認したり、自分から保育者に伝えたりする。
・一日の生活の流れを理解し、自分のことは自分でほぼできている。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

・日にち、曜日、天気、一日の活動の流れなどを、朝の会などで確認したり、掲示したりして、一日の生活に見通しをもって行動できるようにする。
・幼児自身が活動に見通しや区切りがつけられるように、時計や音楽などを使い、工夫する。
・クラスで一緒の活動を行う時間、個々で楽しむ時間を意図的に組み合わせ、気持ちの切り替えができるようにする。
・保育所においては、徐々に午睡なしの生活リズムを確立する。
・早寝早起きを意識させ、4月以降の生活に身体が順応するように、家庭と連携して準備を始め、幼児が自分の健康についての関心を高めていくようにする。

<table>
<tr><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td><td colspan="3">▲早寝早起きを意識する。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">▲一日の生活の流れを確認したり掲示したりする。
▲活動の見通しをもって、片づけの時間などを意識して活動する。
▲クラス全体で活動する時間、個々が主体的に活動する時間など、
切り替えを意識する。</td></tr>
</table>

③ 身の回りの始末（靴、衣服の脱着、持ち物の整理）

基本的生活習慣は、毎日の繰り返しの中で定着してくる。家庭との連携をはかりながら、自分のことは自分でできる力を育むことが大切である。

【幼児の姿】

・タオル・歯ブラシ・コップなどの個人の持ち物は、保育室の所定の場所に置き、必要に応じて使用し、毎日あるいは定期的に家庭に持ち帰って衛生的にしている。
・個別の道具箱などに、はさみ・のり・クレヨンなどを収納し、自分で整理整頓するように心がけている。
・衣服の着脱及び脱いだ服の始末は、決められた時間の中で自分で行う。
・園（所）によっては、土踏まずの形成上、素足で過ごしているところもある。
・風邪の予防や身の回りの衛生面に関心が高まり、うがいや手洗いを進んでするようになる。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

・登降園（所）時に自分のバッグを自分で持つ、自分で翌日の持ち物の準備をする、各自の持ち物の管理をするなどの機会を取り入れながら、身につけるようにする。
・自分の持ち物やロッカー（整理棚）、道具箱の中は保育者が確認して整え方を知らせ、意識して片づけができるようにする。
・各自でハンカチとティッシュを持ち、いつも身につけるように声かけをする。
・自分の服はきちんとたたんでおく習慣をつける。着替えの際は決められた場所や時間内で着替え終わることを意識し、身につけるようにする。
・靴の脱ぎ履きは、できるだけ立ったままで履き替えられるように毎日の生活の中で習慣づける。
・脱いだ靴は揃えたり、靴箱にきちんと入れたりする習慣をつける。
・トイレ使用後、脱いだスリッパをきちんと並べておくように習慣づける。
・傘の扱いに慣れ、始末が一人でできるようにする。（雨水を振り払い、傘が開かないように留める。雨天時に傘をさして園庭を散策する。）

※　どの項目においても、家庭との連携が必要である。

<table>
<tr><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4">▲ハンカチ・ティッシュをポケットに入れて使う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲脱いだ洋服をたたみ、決められた場所にしまう。
▲登園（所）後や降園（所）前に荷物の整理を行う。
▲自分の荷物の整理整頓をする。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4">▲靴下、上履きを履いて生活する習慣をつける。</td></tr>
</table>

④ 食事・排泄

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うには、家庭との連携を図りながら、経験の違いによる個人差を配慮し、丁寧に指導することが大切である。

【幼児の姿】

・昼食は、概ね11時30分から12時頃に食べる。
・年長児の給食時間は概ね30分間であるが、食事にかかる時間は個人差がある。
・給食の場合、規定の量を目安とした上で、個々に応じた量を考えて、主食・汁物・副菜・デザート（果物）などを配膳する。また、肉や野菜などの食材の切り方が、学校給食より細かい。
・配膳準備は、エプロン（幼稚園はエプロンなし）・三角布（帽子）をつけた当番が行う。
・トイレは、自由遊びの時は、行きたい時に行くが、活動の区切りに保育者の声かけで促されて行ったりする。
・排便の後始末が一人でできる。また、パンツやズボンを全部脱がずに排泄ができる。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

・弁当持参の日は、保護者に協力を依頼して、幼児の好きなものだけでなくバランスを考慮した食材を用いた弁当にし、極端な偏食・少食を改善するよう働きかける。
・給食については、幼児ができる準備や片づけを当番制で経験できるようにする。
・昼食の終了時間を意識して食べるように促す。
・箸の使い方、食器の持ち方など、正しい食事のマナーが身につけられるように声かけをする。
・好き嫌いなく何でも食べられることで、健康な生活を送れることに気付かせる。
・朝、登園（所）前に余裕をもって朝食をとり、排便する習慣をつけるよう、保護者に伝える。
・活動の区切りの時間を利用するなど、次の活動の前に時間を設けて、ある程度決められた時間に排泄をすませるようにする。
・意図的に和式のトイレを使用する機会をつくる。家庭や園（所）で体験できない場合は外部施設の利用などを試みる。
・機会あるごとに、生活リズムについてふれるようにし、起床・就寝、食事の時間・内容などを確認し、家庭と園（所）で共通した指導方法を相互で確認する。
※どの項目においても家庭との連携が必要である。

<table>
<tr><td colspan="2">10月</td><td colspan="2">11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="4">▲朝食は時間を意識して、一定の時間で食べる。
▲給食時、自分の食べられる量を配膳してもらい残さず食べる。</td></tr>
<tr><td colspan="8">▲極端な偏食や少食、過食を改善する。</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="4">▲手洗い・うがい・準備・後始末を確立する。
▲決まった時間にトイレに行く。</td></tr>
<tr><td colspan="8">▲パンツやズボンを全部脱がずに排泄し、排便の後始末が一人でできる。
▲和式トイレの使い方に慣れる。</td></tr>
</table>

3-2 かかわる力

⑤ 規範意識（あいさつ、善悪の判断、生命尊重、安全生活）

様々な生活経験の中から、きまりや約束事など社会規範にかかわることに気づかせ様々な人とのかかわりの中で、相手や周りの人への思いやりを育てていくことが大切である。

【幼児の姿】

- 保育者や友達に自分からあいさつをする。
- 園（所）のきまりを守りながら、遊びに必要な約束やルールを自分たちで考え、生活している。
- 小動物の飼育、野菜や花などの栽培をとおして、命を大切にする気持ちが育てる。
- 交通安全教室や園（所）外保育の活動の中で、交通ルールや公共の場所でのマナーを身につける。
- 保護者の自動車やスクールバス（第二幼稚園）などに乗って通園する幼児が多い。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

- あいさつの仕方（立ち止まって相手を見てはっきりと）や返事の仕方、園（所）生活のきまりを守ることの大切さをくり返し伝えていく。
- 言ってよいこと、悪いことなど、言葉のつかい方について意識できるようにする。
- 遊びや生活の中のトラブルが起きたときは、状況を見ながら幼児同士で考えさせ、自分たちで解決できるように援助する。
- 先生や友達と共に生活する中で、様々な葛藤の体験をし、幼児自身が考え、きまりや約束を守ることの大切さに気づいていくよう援助する。
- 日々の保育の中で、自分を大切にすること、他人への思いやりや感謝、生命の尊重などについて、話す機会を意図的に設ける。
- 散歩・園（所）外保育や交通安全教室などの機会を通して、交通ルールを守れるようにする。また、保護者にも入学後一人で通学することを意識するよう働きかける。
- 立入禁止などの危険な場所については、幼児にわかりやすく表示し、生活の中でのきまりとして意識できるようにする。
- 避難訓練・不審者対策など、安全・危険の判断が必要な場面では、幼児自身が考えて行動できるように指導する。

※どの項目においても家庭と連携することが必要である。

<table>
<tr><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td colspan="6">▲自分からあいさつをする立ち止まり相手を見てしっかりあいさつをする。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="3">▲様々な人との出会いの場ですすんであいさつをする。
▲場面や相手に合わせてあいさつをする。</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲してはいけないことや言ってはいけないことが分かる。</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td><td>▲自分で判断する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲みんなで一緒に使うものを大切にする　きまりを守るために互いに譲り合う。
▲動植物の世話を進んで行う。
▲安全指導・園のきまりを守りながら、生活する。</td></tr>
</table>

⑥ 聞く、話す、伝え合う

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことが大切である。

【幼児の姿】

・聞く・話す・伝え合う姿には、発達や経験に応じて個人差がある。
・保育者との信頼関係による安定した情緒を基盤に、自己を十分に発揮している。経験したことや感じたことを保育者に促されながら、自分なりの言葉で表現する。
・自分の気持ちを表すことや相手の気持ちに気づくことなどを、生活の中で経験している。
・自分の思いや気づきなど、話の内容が豊富になり、状況に応じて言葉がつかい分けられるようになる。
・人の話を理解しようとし、簡単な話し合いもできるようになってくる。
・保護者への連絡は、お便りや連絡帳に記入するなど、保育者から保護者へ直接行うことが多いが、簡単な連絡は幼児が直接伝えることもある。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

・話を聞く態度は、話をしている人の方へ身体を向け、最後まで静かに聞くことができるようにする。
・社会事象に関心をもたせ、地域の人や様々な職種の人から話を聞く機会をつくる。
・集団で話を聞いたり、話したりする経験を多くさせると共に、個々に応じた対応をしていく。
・クラスやグループで話し合う機会（行事へのかかわり方、活動の相談など）を徐々に増やしていく。自分の考えを相手にわかるように話したり、友達の話を最後まで聞いたりする態度を養う。
・言葉のやり取りを楽しむために、話を聞くだけでなく、自分の話を聞いてもらう喜びも体験できるようにする。
・美しい言葉や音楽にふれ、絵本の読み語りや歌うことを楽しめるようにする。

<table>
<tr><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲話し手の方に身体を向けて集中して聞く。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="3">▲自分の意見を発表する。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4">▲みんなの前で話す経験をする。</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲一日の中で読み語りを行う時間をもつ。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="3">▲お世話になっている人に感謝の気持ちを自分なりの言葉で伝える。</td></tr>
</table>

⑦ 友達との関係づくり

協同的な学びの活動を存分に経験できるようにすると共に、生活や遊びの中で、自己発揮し、また、自己抑制できるように援助することが大切である。

【幼児の姿】

・幼児同士で好きな遊びを見つけ、遊び方を考えたり、遊びに必要な言葉のやりとりをしたりしながら、友達とかかわっている。
・ドッジボール、鬼遊びなどルールのある集団遊びができる。
・遊びの中でのトラブルは、互いの意見を言ったり、相手の気持ちを聞いたりして、幼児同士で解決している。しかし、解決が難しい時は、保育者の援助が必要なこともある。
・行事などでは、年長児として、中心となって活動している。クラス単位での発表の経験もある。
・園（所）での活動を通して、異年齢の人々とのかかわり方を学んでいる。
・クラス内での簡単な当番・係活動を通し、自己有能感・責任感が育つ。
・共通の目的に向かって、友達と役割分担したり協力したりして、みんなで創り上げる喜びを味わうようになる。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

・グループ製作や行事での係活動、劇遊びや合奏など、目的に向かって友達と協力して取り組み、やり遂げる経験を多くする。
・友達との遊びの中で、きまりや約束を意識できるようにする。
・園（所）内では、いろいろなグループ活動を通して、自己発揮できるようにする。
・協同的な活動の中で、自分の気持ちをコントロールしたり、相手の気持ちを受け入れたりする経験を多くする。
・人とのかかわりの中で、自分の考えや気持ちを言葉にして相手に伝えたり、相手の話を聞いたりし、どうしたらよいか考えることができるようにしていく。
・トラブルの状況や幼児の様々な体験を捉えながら、それぞれの幼児の主張や気持ちを十分に受け止める。そして、互いの思いが伝わるように折り合いをつけ、納得して気持ちの立て直しができるようにするための援助をする。
・友達との協同的な遊びや活動を通して、互いの生活を共に創り出していく楽しさを具体的に味わえるようにする。
・活動に応じて、自分たちで環境を変化させていけるように援助する。

<table>
<tr><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td colspan="6">▲ 日常の当番活動や行事における役割を分担し責任をもつ。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">▲友達と一緒に劇遊び・合奏などに取り組み発表する。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="3">▲クラス全体で楽しさを感じられるような遊びを多く取り入れる。</td></tr>
</table>

⑧ 担任との関係づくり

担任との信頼関係を基盤に生活することで心の安定が図られる。その上で、友達や身近な人々などに能動的に働きかけようとする力が発揮でき、社会性が育まれる。

【幼児の姿】
- 保育者との十分な信頼関係を築き、安心して生活している。
- 保育者との信頼関係を通して、遊びや生活全般の中で、人とのかかわり方、人への信頼感、相手の気持ちを思いやることを学んでいる。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】
- クラス全体で取り組む活動では、ルールを守ったり、合図を聞いて動いたりするなど、クラス全体の中での自分の行動を意識できるようにする。
- クラスの一員としての仲間意識をもち、係活動や行事の準備などで役割を果たす経験をする中で、自己有能感を育てるようにする。
- 年長児として、様々な行事の中心になって活躍し、クラスという集団で行動しているという意識を高める。
- 担任以外の職員など様々な人とかかわる力を養うために、コミュニケーションをとる機会を意図的につくり、社会性を育む。
- 保護者に園（所）の保育・教育方針や園（所）での幼児たちの様子を話したり、家庭での様子を聞いたりしながら、相互理解に努め、信頼関係を築いていく。

<table>
<tr><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="3">▲園（所）行事の祭、クラス単位で並んだり、移動したり 話を聞いたり機会をもつ。
▲クラス全体での活動は、担任と集団という関係の中で行動する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲その子の良さを十分認める。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="3">▲卒園（修了式）の喜びを共に味わう。</td></tr>
</table>

3-3 学ぶ力

⑨ 学びの芽生え

様々な環境の中で、好奇心や探究心をもち、試行錯誤することで自ら学ぼうとする意欲を育むことが大切である。

【幼児の姿】

- 身近な自然体験や社会事象、遊びを通して、直接見たり触れたりする経験の中で様々なことに気づいたり、試行錯誤したりして、知的好奇心や探究心が育っている。
- 遊びや生活の中で、文字や数字への興味や関心をもって活動している。（トランプやカルタ遊び、日にちを読む、人数を報告するなど）
- 絵本や紙芝居などを読んでもらう経験を通して、想像力が豊かになっている。
- 園（所）内の絵本コーナーや地域の図書館を利用し、絵本や図鑑を自分で選んでいる。
- 四季の自然現象に直接触れたり、驚いたり、感動したりして、豊かな感性が育っている。
- 童話の読み語りを楽しみにし、想像しながら聞いたり、続きを期待したりしている。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

- 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字に対してのかかわりを広げるようにする。
- 保育室環境（掲示物）に、絵や写真に加えて文字環境を増やしたり、幼児の名前や物の名前を表示したりして、文字や数字への興味や関心を高めるようにする。
- 文字や絵を使って、伝えることを楽しむ経験ができるような活動や遊びを取り入れる。（郵便屋さんごっこ、カルタ作りなど）
- カレンダーや時計などを活用して数字を読む経験を多くしたり、トランプやすごろくなどのゲームなどを取り入れたりして、数への興味や関心を高めるようにする。
- 時計をもとに、活動時間の始まりと終わりを意識できるようにする。
- 絵本コーナーを利用し、自分で好きな本を選んで読めるように環境を整える。
- 共通の体験をしたときや休み明けなどには、自分の感想や体験したことなどを発表する場を設ける。
- クラスに図鑑を用意するなど、知的好奇心を高める環境を構成する。
- 絵本の貸し出しや保護者による絵本の読み語りをすすめる。

<table>
<tr><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="3">▲遊びを通して、文字や数に触れて興味関心を高める。
▲ルールの遊びを通して、得点（数字）を意識して遊ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲まわりの植物や虫の様子などから、季節の変化を感じていく。
▲身近な植物や小動物の成長に興味をもって世話をする。</td></tr>
</table>

⑩ 運動・表現

幼児たちが興味や関心をもって、体を動かしたり様々な方法で表現することの楽しさや喜びを感じ、積極的に物事にかかわったり、困難なことを最後までやり遂げようとする意欲を育むことが大切である。

【幼児の姿】

・戸外遊びや園（所）外保育の中で、全身を使って運動する心地よさを味わっている。
・保育活動の中で、簡単なルールのある遊びや器具を操作する遊びも経験している。
・運動遊びは、クラス全体で楽しむ遊びと個々にチャレンジする遊びがある。
・保育者と一緒に、巧技台やマットなどの準備・片づけを自分たちで行う。
・クレヨン・色鉛筆・絵の具などを使って絵を描いたり、はさみ・のりを使って製作したりして、個人作品や共同作品で自分なりの表現ができる。
・様々な材料を使って、遊びに必要なものを自分たちで作る。
・友達と共通のイメージをもって共同製作を楽しんでいる。
・楽器遊びの中でいろいろな楽器にふれ、音色の違いに気づき、使い方や扱い方を知る。
・誕生会やお楽しみ会などで、友達と一緒に歌ったり踊ったり、簡単な楽器の演奏をしたりする。
・見たり聞いたりしたことを遊びの中で再現し、イメージをふくらませて作ったり表現したりする。

【楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫】

・大縄・短縄・フラフープなどの遊具を使った遊びや、走る・跳ぶ・投ずる・捕る・蹴るなど、いろいろな運動遊びを数多く経験させ、身体全体を使って遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
・運動遊びへの興味や関心を高め、新たな自分の力や友達の力に気づき、やればできる喜びを味わえるようにする。
・ルールのある遊びの中で、思いきり自分の力を出したり、友達と競い合ったりすることを楽しむ経験を多く取り入れる（リレー遊び、ボール遊び、鬼遊びなど）。
・製作遊びを通して正しいはさみの使い方、のりの使い方、また、折り紙や手紙をきちんと折る、こま回しをするなど、手先の細やかな動きがスムーズにできるような経験を多く取り入れる。
・自分の好きな絵を描いたり、製作したりする経験を通して、表現活動を楽しめるようにする。
・鉛筆などにふれる機会をつくり、正しい鉛筆の持ち方を意識できるように手助けする。みんなで歌ったり踊ったり楽器で演奏したりして、音楽に親しむようにする。

<table>
<tr><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲ルールを守りながら運動をたのしむ。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4">▲チーム同士で挑戦し合う楽しさを味わう。
▲新しいこと苦手なことにも挑戦しようと頑張る（縄跳び、鉄棒、コマ回し）。</td></tr>
<tr><td colspan="6">▲今までの経験を生かし、イメージを表現するために試行錯誤して作品に取り組む。
▲ボール、縄跳び、固定遊具など、目標を設定し繰り返しチャレンジする。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">▲劇、合奏など様々な表現活動を経験する。</td></tr>
</table>

Ⅱ スタート・カリキュラム

1 スタート・カリキュラムとは

「スタート・カリキュラム」とは、小学校に入学した児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成した第１学年入学当初のカリキュラムのことです。

例えば、学校を探検する生活科の学習活動を中核として、国語科、音楽科、図画工作科などの内容を合科的に扱い、大きな単元を構成することが考えられます。
こうした単元では、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となります。

また、幼稚園や保育所等の学びの形態を踏まえ、４５分の授業を２０分や１５分程度のモジュールで時間割を構成することなども考えられます。

入学したばかりの児童に「明日も学校に来たい。」という学校生活に対する意欲と安心感をもたせ、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続をもたらすように、スタートカリキュラムを工夫することが大切です。

○幼稚園・保育所での経験を生かす

小学校入学当初においては、子供がこれまで経験してきた遊びや生活環境を参考にし、取り入れることで、子供の戸惑いの解消やこれまで身につけた力の発揮につながります。

アプローチ・カリキュラムに記載した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に、小学校の学習・生活で生かすことを考えた工夫をします。

○合科的・関連的な指導

就学前の子供はこれまでに、生活や遊びを通して、さまざまなことを学んできています。体験を通じた学びが中心である生活科では、就学前に体験してきた内容を活かしつつ、生活科を入口として各教科学習につなげていくことが大切です。

＊次頁**「3 小学校年間指導計画一覧（4月分）」を参考にした例**

生活科 がっこうだいすき	国語　よろしくね	書写　しせいともちかた
	算数　なかまをつくろう	音楽　うたでなかよしになろう
	図工　すきなものいっぱ	体育　固定施設を使った運動遊び
	道徳　ようこそ１ねんせい	学校行事・特別活動

○授業時数や内容の工夫

合科的・関連的な指導を進めるにあたっては、授業の単位時間を15 分モジュールで区切ったり、場合によっては伸ばしたりしながら柔軟な時間割を進めることが効果的です。また、小学校入学により子供が感じる戸惑いをやわらげるためにも、例えば１時間目は学校生活を楽しめる授業にするなどの、子供が学校・教科学習になじめるような授業内容の工夫も効果的です。

2 スタート・カリキュラムのねらい

児童が安心して、学校生活を送ることができるようにする。	児童が各教科等の学習に意欲的に取り組むことができるようにする。	学習や生活の基盤となる学級集団をつくるようにする。
⇩	⇩	⇩
学校の生活時間や校舎の様子、決まりやルールに慣れるための活動工夫	幼児期の教育との接続を意識した授業等の工夫	新しい先生や友だちとの出会いを楽しむ活動

3 小学校年間指導計画一覧(4月分)

( ) 内数字は、授業時間数を示しています。

国　　語	みんなのせかい（４）、はきはきあいさつ（２） よろしくね（２）、じをかこう（３） ほんがたくさん（３）、あいうえおのうた（５）
書　　写	しせいともちかた（１）、ひらがなのかきかた（３）
算　　数	なかまをつくろう（１）、くらべよう（１） １０までのかず（７）、おおきいちいさいかずならび（１） ０というかず（１）
音　　楽	うたでなかよしになろう（６）
図　　工	すきなものいっぱい（２） 「じぶんマーク」でみんなともだち（２） しぜんとなかよし（２）
体　　育	固定施設を使った運動遊び（３）、体ほぐしの運動遊び（３）
道　　徳	ようこそ１ねんせい（１） べんきょうがはじまりますよ（１）
学校行事	入学式 発育測定 交通安全教室
特別活動	学級開き １年生を迎える会

4 生活科「すたあとぶっく」における年間指導計画

○「すたあと　ぶっく」につきましては、東京書籍「新編あたらしいせいかつ上」（１年）に示されている年間指導計画を参照願います。

単元名	時数	小単元名	
すたあとぶっく	３時間＋（９）時間	どきどき　わくわく　１ねんせい	＊生活科３時間＋他教科等９時間の計１２時間
		がっこうの　せいかつ	
		はじめまして	
		たのしい がくしゅう	
		たのしい いちにち	

全　体	学校生活に慣れ、安心できるとともに、学習マナー・ルールを理解し、楽しく学習しようとする意欲を持てるようにする
生活科	学校の施設の様子および、学校を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにする。
国語科	自分が伝えたいことを、みんなの前で、はっきりと適度な声の大きさと丁寧な言葉遣いで話すことができるようにする。
算数科	1から10までのものの個数を数えることができるようにする。 音楽科音楽に合わせて体を動かしながら、友達と遊ぶことができるようにする。
図画工作科	自分の大好きなものや伝えたい出来事などを、クレヨンで描くことができるようにする。
体育科	ルールを守って、固定遊具で遊んだり、簡単なゲームで遊んだりすることができるようにする。
特別活動 学活⑵	学級の友達と仲良くし、学校生活に適応することができるようにする。

5　がっこう　だいすき

子供の姿	教師のかかわり

元気にあいさつ

●ゲームを通じて楽しくあいさつする。
●クイズをしながら、いろいろなあいさつを発表しあう。
「おはよう」
「いただきます」
「さようなら」　など
●２人組であいさつする。
●元気良くあいさつすることを楽しむ。
●学校でも、家庭でもしっかりとあいさつするようにする。

●子供の生活知識をいかして活動につなげさせる
「朝起きてするあいさつは？」
「ご飯を食べる時は？」　など
●ゲームをきっかけに楽しくあいさつできるようにさせる。
●教師が積極的に元気なあいさつを示す。
●あいさつをしっかりできることが、礼儀正しいと言うことや、あいさつした方もされた方も気持ちが良くなることを伝える。

クラスに入ったら（一日入学）

●自分の席を探して座り、あいさつをする。
「おはようございます。」
●教師の話をきく。教師の真似をして「〇〇小学校」「〇年〇組」「〇〇〇〇先生」と言う。
●名前を呼ばれたら元気に返事をする。
●教師の話を静かにきいて待つ。
●保護者の人にそばに来ていただき、一緒に配布物の確認をする。
●（例）なぞなぞ大会をする。
●絵本の読みきかせをきく。
●次に学校にくる日のことを確認する。
●帰りのあいさつをする。
「さようなら」

●自分の名前のシールが貼ってある机を探して、座るよう声かけをする。
●子供へ入学のお祝いと、一人ひとりに出会えた喜びを伝える。
●目を見て、笑顔で名前を呼び、返事の後は一人ひとりを褒めてあげる。
●静かに待つように声かけをし、保護者へ学級方針などを話す。
●学年だよりを見ながら、配布物を一つずつ確認する。
●クイズ大会では答えがわかったら、静かに手をあげるよう約束する。
●元気にあいさつをするよう声かけをする。

楽しい小学校

子供の姿	教師のかかわり

ランドセル・体操着はどこに置くのかな？

- 自分のロッカーを確認して、ランドセルを入れる。
- 体操着をフックに掛ける。

- 自分のロッカーを確認して、置く位置やランドセルの向きを考えさせる。
- 体操着を掛ける場所を確認させる。

今日は雨。傘やレインコートはどこに？

- 靴箱の脇に設置してある傘立てに、自分の傘を入れる。
- レインコートは、水滴を切った後、廊下の衣類掛けにきちんと掛ける。

- 傘をくるっと巻いて傘立に入れさせる。
- レインコートを掛ける位置を知らせる。

あいさつの仕方はどうすればいいのか？

- 朝の挨拶をする。
  - ・止まって，相手の目を見て、おはようございます。
- 基本的な挨拶の仕方を学ぶ。
- 隣同士で行ってみる。
- 場面や相手に合わせて挨拶をする。
- 相手に聞こえるようにはっきりと話す。
- 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話をする。
- 挨拶の言葉に興味を持ち、周りの人に挨拶しようとする。

- 挨拶について学習することを知り、興味をもたせる。
- 生活の中の挨拶を振り返ったり、国語の教科書の挿絵から挨拶の言葉を考えさせる。
- 一日の生活の中から場面を設定し、どんな言葉で挨拶をするか考えて、声に出して言わせる。
- 場面や状況に合わせた言葉遣いで、はっきりと挨拶することができるようにさせる。

子供の姿	教師のかかわり

元気な返事をしましょう

●名前を呼ばれたら、元気よく「はい」と答える。 ●授業中の手の挙げ方を学ぶ。 ●朝の健康観察の仕方について学ぶ。	●実際に、元気に「はい」と声を出して、数回練習させる。 ●「はい」は、一回とするようにさせる。 ●自分の名前を呼ばれたら、「はい」と答え、「元気です」というようにさせる。

トイレに行きたい

●トイレの使い方を知る。

●男子編（小便器）
- 便器の前の方に構える。
- 便器の外にこぼさないようにする。
- 用を足したらボタンを押して水を流す。

●女子編（和式）
- トイレに入ったら鍵を閉める。
- 便器の前の方に構える。
- ペーパーは、２～３枚程度に切り、無駄にしない。
- 用を足したらボタンを押して水を流す。

●洋式トイレ
- トイレに入ったら鍵を閉める。
- 便座にしっかり腰掛ける。
- 前後間違わないように腰掛ける。
- 用を足したらボタンを押して水を流す。流れたのを必ず確かめる。

●トイレを使用した後は、必ず手を洗うようにさせる。
●もし、トイレを汚してしまったら、必ず担任に報告するようにさせる。

●授業中にトイレに行きたくなった場合について知る。

●トイレは基本的には、休み時間に済ませることを徹底する。

●小さな声で「トイレに行ってもいいですか」と聞くようにさせる。
●先生の指示に従って、トイレに行かせる。
●後ろのドアから出て、用が済んだら、後ろのドアから入り、静かに自分の席に戻らせる。

子供の姿	教師のかかわり

靴箱にきちんと靴をそろえる

●まずは、外靴も上靴も「履き方」を知る。
・立って靴を履く。
・座って履くと周囲の子に迷惑がかかる。
・踵をつぶして履かない。
●次は、外靴も上靴も「靴箱への入れ方」を知る。
・つま先を奥にいれる。
・踵をとをきちんとそろえる。
●靴箱の上段には上靴を入　れ、下段には外靴を入る。

●靴箱の中に、外靴も上靴もそろえて入れさせる。
●踵をきちんとそろえて入れると、きれいであることを理解させる。
●雨の日の長靴は、途中から折って靴箱に入れることも機会をみて（雨が降ったとき）教える。

子供の姿	教師のかかわり

上手な着替え

●保育所や幼稚園と違って、小学校は着替えの回数が多いことを伝える。
●例えば
・体育（水泳）
・給食
などである。
●決められた時間に行うこと。
●自分の席で、一人で行うこと。

●着替えについて確認をさせる。
●先生と何度か練習させる。
●上着のたたみ方
・広げる
・袖を内側にたたむ
・上着を半分にする。
●スカートやズボンのたたみ方
・広げる
・半分に折る、さらに半分に折る。
●上着と「スカートやズボン」を一緒に重ねて終了することを理解させる。
●衣類のたたみ方は難易度が高いので、何度も練習させる。

遊具の安全な使い方を知ろう

●校庭の遊具を知ろう。
・ブランコ、滑り台、ジャングルジム、うんてい、鉄棒、シーソーなど。
●遊具によっては、１年生が遊んではいけない遊具があることを理解する。
●遊ぶためのルールを理解する。
・順番を守る。
・順番を待っている間は、遊具から離れて待つこと。
・危険な遊びや乗り方はしない。
・遊具で遊んでいる友だちに対していたずらをしない。

●教師に引率され学校の敷地内を見て歩き、校庭の施設などの関心を持たせる。
●校庭の遊具を知る。それを使うルールもあることも分からせる。
●遊具によっては、遊ぶときの服装も考えさせる。
●実際に、時間をとって遊具で遊ばせる。

子供の姿	教師のかかわり

歌で仲良しになろう

●教科書の「ぞうさんの さんぽ」を歌う。
・ぞうさんのまねをしながら、歌って、歌の終わりに挨拶をする。

さんぽに　ぶらぶら　ぞうさん
てんきが　いいので　ごきげん
おはなも　ぶらぶら　ぞうさん
なかまを　みつけて　こんにちは

●教科書の「てと てで あいさつ」を歌う。
・歌い終わった後は、簡単な自己紹介を行う。

おはよう　あくしゅ
てと　てで　あいさつ
わくわく　あくしゅ
なかよし　あくしゅ

●友だちとしっかり向き合い、気持ちが伝わるように歌わせる。
●友だちとしっかり関わることで、音楽がより楽しくなることを感じ取らせる。

●歌詞の内容から、二番目からは二人で動くなどその後の動きを工夫させる。
●「ぞうさんのさんぽ」を歌い終わったあと、「てと てで あいさつ」を歌い、その後簡単な自己紹介を行わせる。

子供の姿	教師のかかわり

本がたくさんありますよ

●読み聞かせを楽しんだり、読みたい本を選んで読んだりすることができる。
●学校生活が楽しみになる、新一年生におすすめしたい本（一例）
　〇おはなし きょうしつ
　　作・絵：さいとう しのぶ
　　出版社: PHP研究所
　〇ハキちゃんの「はっぴょうします」
　　作：薫 くみこ
　　絵：つちだ のぶこ
　　出版社: 佼成出版社
　〇こぎつねいちねんせい
　　作：斉藤 洋
　　絵：にき まゆ
　　出版社: あかね書房
　〇おばけのソッチ1年生のまき
　　作：角野 栄子
　　絵：佐々木 洋子
　　出版社: ポプラ社

●学級文庫や学校図書館について知り、たくさんの本があることを知らせる。
●図書館の見学につなげさせる。

整列の仕方を練習しましょう

●教師の前に並ぶ。
●教師が移動し、立ち止まったところにスタートの合図で並ぶ。
●壁にタッチして元の位置に並ぶ。
●歩き回り、合図で一斉に並ぶ。
●音楽をかけ、その間ダンスを踊ったり、動き回り、合図で一斉に並ぶ。

●子供が楽しんでできるように、ゲーム感覚で行わせる。
●さまざまな並び方ができるように、合図を変えて工夫させる。
●事故が起こらないよう注意させる。

子供の姿	教師のかかわり

水道の使い方を知ろう

●水を飲むとき（コップがないとき）
- 体が大きい子は蛇口を上に向けて、栓を開ける。
- 水が勢いで飛ばないようにする。
- 蛇口に口を付けて飲まない。
- 飲み終わったら栓を閉めて、蛇口を下向きにする。
- 体が小さい子は、蛇口から水を流し、顔を横にして飲む。

●手を洗う
- 両手を水に濡らす
- 石けんで泡立てる。
- 手のひらを合わせてごしごしする。
- 手の甲も同じようにする。
- 指の先と爪の間もごしごしする。
- 指の間もごしごしする。
- 親指もごしごしする。
- 手首もぐりぐりする。
- 水で泡をしっかり流す。

●順番を守って、水の前に並んで、全員に経験させる。

●水を流す際は、鉛筆の太さくらいと言ってあげると、水の量が加減できることを理解させる。
●手を洗い終わったら、蛇口に水を掛けてきれいにすることを忘れないようにさせる。。
●ポケットにハンカチを入れておくように事前に指導しておく。
●床が水で濡れたら、次に使う人が滑らないように、ぞうきんで拭かせる。
●それができなければ、先生に伝えるように指導しておく。

子供の姿	教師のかかわり

姿勢と鉛筆の持ちかたを学ぼう

●イスの座り方を知る。
・イスに深く腰を掛ける。
・背もたれに沿って背筋を伸ばす。
・猫背にならない。
●机とイスの間隔を知る。
・机と自分の体の間には、握り拳が一個入る程度に保つ。
●鉛筆を正しくもって、使えるようにしよう。
・親指と人差し指は、つかないようにすること。
・鉛筆は傾ける（約６０度）。
・親指が人差し指の上にこないこと。
・中指がえんぴつの上に乗らないこと。

●イスに座ったときの姿勢を学ばせる。

●すでに間違った持ち方をしている児童がいれば、根気強く指導する。
●文字を書く学習をすることを知り、興味を持たせる。
●教科書の写真を見て、姿勢と鉛筆の持ち方をまねて、運指の練習をさせる。
●字形や筆順、始筆と終筆に注意しながら、やさしい字形のひらがなを書かせる。

友だちたくさん「よろしくね」

●名前をカードを使って自己紹介することを知り、その仕方を理解します。
●教師によるモデルを見て意欲を高め、名前カードを作る。
●自己紹介の練習して、友だちと名前カード交換会をする。
【ルールー例】
〇音楽スタート。
〇音楽に合わせて、自由に歩く。
〇音楽が止まったら、「お願いします」といって近くの友だちと握手をする。
〇じゃんけんをし、勝った人から自分の名前を言い、名刺を渡す。

●自己紹介という改まった場に適した言葉遣いで話すように指導する。
●学校探検の際に、自分の名前を名乗ったり、相手の名前を聞いたりするのに発展させる。

〇次に負けた人が、自分の名刺を渡す。
〇また、音楽が鳴ったら同じことを繰り返す。

●最後に、名刺交換の感想を言い合う。

●友だちの名刺を大事にし、友だちの名前をできるだけ、多く覚えさせるようにする。

子供の姿	教師のかかわり

休み時間の過ごし方

●短い休み時間と長い休み時間の違いを知ろう。

【短い休み時間】

〇次の時間の学習の準備をする。
- 体育ならば着替える。
- 音楽ならば、必要な楽器を用意しておく。

〇トイレに行きたい人は、トイレに行っておく。

〇水を飲みたい人は水を飲んでおく。

〇時間が余れば、友だちと会話したり、本を読んだりして過ごす。

【長い休み時間】

〇基本的には、短い休み時間と同じだが、長い休み時間は、外で元気に遊べるくらいの時間がある。

〇その際は、友だちを誘って元気に遊ぶ。

〇ベルが鳴ったら教室に入る。
その際、手洗い、うがいを忘れない。

●学習と学習の間の時間、つまり休み時間の過ごし方を理解させる。

子供の姿	教師のかかわり

保健室ってどんなところ？

●ケガしたとき、簡単な手当をするところ。
●体が調子がわるいとき、ベッドやソファで休むことができるところ
●心や体について知りたいことがあるときは、教えてくれるところ。
●悩み事があったり落ち込んだ時、話を聞いたり、相談に乗ったりするところ。

●保健室を場所や、使い方を理解させる。
●保健の先生からの講話をもらい、理解を深めさせる。
●子供の健康観察のポイント
・寝起きは良かったか。
・食欲はあったか。
・顔色はいいか。
・熱や頭痛、咳や喉の痛みはあるか。
・発疹はあるか。
・下痢や便秘をしてはいないか。
・睡眠は十分か。
・元気はあるか。

おなかがすいた（給食の準備）

●給食の時間について知る。
〇準　備　約１５分
〇食　事　約２０分
〇片付け　約１０分
●給食の準備
【給食当番】
〇４～５人の班で準備をする。
〇給食着・帽子・マスク着用する。
〇手を石けんで洗う。
〇食器・給食・牛乳を取りに行く。
〇配膳台の上に、食器や給食を並べ、配膳の準備をする。
【給食当番以外の児童】
〇手を石けんで洗い、準備ができるまで、静かに待つ。

●給食のおおよその時間を知らせる。

●配膳
〇担任と一緒に、配膳を行う。
〇当番以外の子は、給食を受け取って自分の席に戻る。
〇配膳がすべて終了したならば、当番は給食着を脱ぎ、給食袋にしまう。
●給食をいただく
〇「いただきます」の挨拶をしてから食べる。
〇食事のマナーを守って食事（右側参照）。
●片付け
〇みんなで「ごちそうさま」を言う。
〇片付けに入る。
・残したものは、先生の指示に従って、まとめる。
・食器やトレイは、種類ごとに重ねる。
・牛パックは折りたたみ、まとめる。
・当番は、食器かごや食缶を元の場所に戻す。
・配膳台をふきんで拭いたら、ふきんをしっかり洗い干して終了。

●食事のマナー例
〇大声を上げさせない。
〇三角食べを行わせる。
・主食→おかず→汁物
〇他の子供に迷惑がかからない程度に会話させる。
〇箸やスプーンで食器を叩かせない。
〇「ごちそうさま」をするまで立ち歩かせない。
〇苦手な食べ物でも、箸を付けさせてみる。
〇おかわりは学級のルールを守らせる。

＊食物アレルギーをもつ児童については、保護者・医者・給食センターなどと十分に話し合いをした上で対応すること。

子供の姿	教師のかかわり

掃除の仕方を覚えよう

●掃除で使うものを確認する。
・ぞうきん
・バケツ
・ほうき
・ちりとり

●ぞうきんの使い方
〇ぞうきんを絞る
・きっちり絞らないと、水が落ちて、床がびしょびしょになることを伝える。
●座敷ぼうきの使い方
〇板の目に沿って掃くこと。

●掃除用具の使い方を確認させる。
●毎日、掃除は行うので、時間を掛けて丁寧に行わせる。

●ぞうきんを絞り、自分の机を全員に拭かせる。

●座敷ぼうきの使い方についても、全員に経験させる。

○穂先はなるべく立てて、ときどき向きを変えて、おしつけないようにして履くこと。
○ぱっぱとはかないで、静かに履くこと。
○ゴミも立たない。
○使わないときは吊るしておくことで、穂先が曲がるのを防ぐ。

●自在ぼうきの使い方
○自在ぼうきは、床から離さないで、軽くなでるように使うこと。
○ほうきは、両手で持って使います。
○使わないときは、毛先が床につかないようにしておくこと。
○毛先についた綿ぼこりは、こまめに取り除くこと。

●ちりとりの使い方
○しゃがみ込んで、しっかりちりとりの先を床に付ける。
○ほうきでゴミを静かにちりとりに流し込む、ちりとりの柄の方にもっていく。
○何度か行い、ゴミがたまったら、ゴミ箱に捨てる。

●自在ぼうきの使い方についても、全員に経験させる。

●ちりとりと、座敷ぼうき、自在ぼうきと合わせて使い方についても、全員に経験させる。

子供の姿

教師のかかわり

避難の仕方を学ぼう

●地震が起きたときの避難
○学校への登校途中に地震が発生したら
・かばん等で頭を守る。
・周りに建物、電柱、ブロック塀があればその場から安全なところまで離れる。
・地震が収まったら、大人の人に助けを求めること。
○学校にいるときに地震が発生したら
【教室にいるとき】

●１年生なので、とりあえず、最低限度の避難行為として左記のこと理解させる。
●学校の訓練に合わせながら、その意味を徐々に理解させていくようにさせる。

・急いで教室から飛び出したりしないように、まずは机の下にもぐって上から何か落ちてきても大丈夫なように頭を守る。
・地震の揺れが収まったら、先生の指示に従って避難する。

【廊下や階段にいるとき】
・廊下にいるときに地震が発生したら近くの教室に入ること。
・動けないくらい揺れがひどい時はガラス窓から離れてしゃがみ、揺れが収まるのを待つ。
・階段にいるときに地震が発生したら、あわてて階段を降りたり昇ったりするのは危険なのでその場にしゃがみ、揺れが収まるのを待つ。

【校庭にいるとき】
・校庭いたとき地震が発生したら、その場にしゃがみ、揺れが収まるのを待つ。

〇学校帰りに地震が発生したら。
・登校時と同じでまず建物や電柱に注意して近くの安全な場所に避難すること
・地震が収まったら、大人の人に助けを求めること。

他の防災訓練等については各学校指導計画に沿って実施すること。

子供の姿

教師のかかわり

プリント類のしまい方を知ろう

●プリント類の配布について
・先生が最前列の子供たちに、その列の枚数分のプリントを渡す。
・渡された子は、自分のものを一枚取り、残りのプリントは、後ろの子に渡す。
・それを次々と繰り返す。
●配布されたプリントは、二つ折りにきちんと折る。
●連絡帳入れがある場合は、それに入れる。
●きちんとできたかどうか、隣同士で確認する。

●ここでは、プリント配布の最も一般的な方法を紹介する。
●渡す際に、前の人は「はい。どうぞ」といって後ろに渡す。後ろの人は前の人に「ありがとう」といって受けとるように指導する。
●二つ折りは時間がかかるので、時間に余裕を持たせ取り組ませること。また、機会あるごとに、普段から練習させておくこと。

子供の姿	教師のかかわり

朝の会と帰りの会の持ち方を知ろう

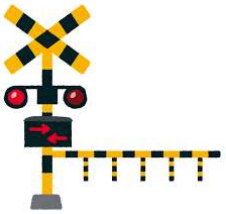
●朝の会（例） １　あいさつ（おはようございます） ２　健康観察 ３　今日の予定 ４　今日の目標 ５　先生のお話 ●帰りの会（例） １　今日の振り返り ２　明日の予定（係から） ３　先生のお話 ４　あいさつ（さようなら）	●日々の活動プログラムの積み重ねでこどもの「話す力」や「自主的に活動する力」などを身に付けさせる。 ●１日の予定や学習内容を確認し、体調のチェックを行い、学級や個人の目当てを考えることで、１日の見通しをもたせる。 ●今日がどのような１日だったかを振り返らせ、明日以降の目当てをもたせる。

安全な歩き方を身に付けよう

●安全な歩き方を確認する。 〇前を見て歩く。 〇友だちと広がって歩かない。 〇横にはみ出したり、飛び出したりしない。 〇決められた通学路を歩く。 ●歩き方の練習 〇路側帯のある道路 ・白線の内側を歩く 〇路側帯のない道路 ・できるだけ右側を歩く。 〇横断歩道の渡り方 ・右みて、左みて、もう一度右をみる。 ・安全が確認できたら、手を挙げて早足で渡る。 〇信号のある横断歩道の渡り方 ・赤信号：渡らない。 ・青信号：左右を確認して渡る。	●体育館等で実際に歩いて練習をさせる。

・点滅：渡らない。
・途中で点滅：急いで渡りきる。

〇踏みきり
・一端止まって、左右の安全を確かめてから渡る。
・警報器が鳴っている：渡らない。
・遮断機がおりている：渡らない。



子供の姿

教師のかかわり

不審者に気を付けよう

●不審者に対して「い・か・の・お・す・し」で対策を！
〇イカ　いかない
（知らない人についていかない）
〇 の　のらない
（知らない人の車に乗らない）
〇 お　おおきな声で呼ぶ
〇 す　すぐ逃げる
〇 し　しらせる
（何かあったらすぐ知らせる）

●不審者は、子供が遊んでいる場所から人目を忍ぶところに呼び出し犯行におよぶ。ひと気のない公園や茂み、エレベーターは特に注意・警戒が必要である。
●もし不審者に遭遇したら、大きな声もしくは防犯ブザーで周囲に助けを求めながら走って逃げることを教えておく。
●また、保護してくれる大人がいない時は、「子供１１０番の家」に　駆け込むようにあらかじめ教えておく。